

# 婦人と子ども

第十三卷第二號

## 幼稚園の保姆

東京女子高等師範學校教授

下 田 次 郎

### 諸動物の母

母と云ふものは人間に始まつたものではないので、下等動物にも母といふものはある。併し魚の如きは卵を生み放しで、あとは自然に育つに任すので、母が子供を世話することはない。それで鳥などになると、卵を生んでそれを暖めて雛を孵す。孵した後も鶴なら鱗を採る事などを親がして見せて、子がそれに倣ふ、多少教へると云ふこともあらうと思ふ。獸類になると、乳を飲ませ、又保護することも、教へることも、鳥等よりは一層多く

なつてくる。人間になつて最も母は子供の爲めに骨を折るのである。胎内九箇月間子を宿して居る事からして容易なことではない、生れてからも鳥や獸をみた様に、早く獨立しないから非常に母の手がかゝる、母としての仕事は人間に至つて最も發達して居るといふことが出来る。

### 母の本能

併し下等動物から既に母はあるのだから、人間の母となる迄の母の用意と云ふものは、何十萬年か、何百萬年かわからない、古い時からあつたの

で、人間の母としての婦人の準備といふものは、實に根が深いものである。それで婦人は皆母の本能と云ふものを強くもつて居るのである。それは實際母となつてその本能が働くのみならず、既に子供の時から女の子にはそれが現はれて居る。人形を抱いて寝かせたり、冊いたりするのは人が人形を與へるからそうするといふばかりでなく、自然に人形を勞はるといふ性能が具はつて居る。婦人性の發揮は、母の本能の發揮といふ事を除いては完全ではないと思はれる。

## 女教師としての婦人

母としては勿論であるが、教師となつて母の本能を以て、母が子に對するやうな慈しみ、親切、温かきをもつて生徒に對さなければ女教師としての眞の特色を充分に現すことは出来ないと思ふ。女子を教員として、その存在を認める有力な理由の一つは母の本能を有すると云ふ點にあるであらう

と思ふ。母の本能の現れない女教員は、要するによい教員とはなれまいと思ふ。

## 生きた地藏菩薩

これが幼稚園の保姆となると、その仕事は一層母の仕事に近づいてくる、小學とか、中等學校の生徒よりは、幼兒の内でも母の世話に多くなつて居るやうなもので、幼稚園に於ける保姆は母の代理として幼兒を保育する精神がなくてはならぬと思ふ。先づ生きた地藏菩薩みたやうなものでなくてはいかぬと思ふ。かやうにして保姆としての職務がよく勤まるばかりでなく、たとひ保姆でなくなつても、保姆たる時に盡した骨折り、幼兒を取扱ふことから得た思想、感情と云ふものは、生涯を通じて結構な寶であると思ふ。母である前に既に母であつたと云ふことで、我が子を教育するにも、非常に利益があると思ふ。獨逸では高等女學校を卒業してその上に二年ばかり、フラウエン、

シユーンと云ふ家庭の人となる婦人を教育する學校があるが、そこでは幼稚園の保育を必須科として居るのは大に理由があることと思ふ。日本でも女學校を卒業した補習科の生徒などには幼稚園の幼児を扱はしてみたならば、他日母となつた時に、餘程役に立つことと思ふ。先年此のことを高等教育會議に建議した議員もあつたが採用せられなかつたが、それはよい事と思ふのである。幼稚園の創設者フレーベルは女子の教員として適當なる事を信じ、女教員を養成することを必要とした人である。近くは獨逸のベルグマンの如きも、男子に兵役があるやうに、若い婦人は必ず義務的に幼児の世話をするがよいと云ふて居る。保姆を職業として居る人は職業に盡すことの效果の外に、保姆であつたことが後來とだけ母として、又婦人として利益があるかわからないと思ふのである。

## 幼児を預る所の必要

なほ少しく別事に涉るが、獨り幼稚園に於て幼児を保育するのみならず、勞働をする男女の幼児で、それが足手纏ひとなつて働けないやうな人々に、その子を仕事の時間だけ預つて世話をするといふ仕事も甚だ有用なことである。獨逸では子供預り所といふものがあり、佛蘭西ではクレージュといふものがあつて、乳呑兒から始めて、日中子供を預り。世話をする婦人が附いて居て、幼児には乳を飲ませ、襁褓の取替へなどとして、幼児には幼児相當の遊びなどをさして、親が日中手足纏ひなく働かれるやうにして居る所がある。朝仕事に行きがけに、子供を渡して置いて、夕方仕事から歸る時に受け取るのである。日本にも少しは子供預り所もあるやうであるが、追々勞働する人間も多くなり、足手纏ひの子供も随分あることであるから、それ等の世話をし、保育をすることは甚だ結構な仕事であると思ふ。

## 保姆としての自覺

總てこれ等の仕事に従ふ人は一方精神上の養護者であると共に、一方身體の養護者でなくてはならぬから、看護のことも一通りは心得て居なくてはならぬ、幼児はまだ新鮮で、無垢のものであるから、それを預るものゝ影響は非常に強いものである。後年の教育よりも寧ろ幼児の保育の方が教

## 兒童救濟事業と婦人

(フレイベル會十二月例會に於て)

一  
世が文明に進むに従つて生存競争がはげしくなり、社會に弱者が多くなり、種々の方面に社會的救濟の必要が起る。蓋し救濟事業といふのは弱者の保護の意味に外ならない。而して弱者といふに

育上には大切なことであるから、保姆は常に精神的に子供によき影響を與へることを務めねばならぬ併して常に修養を怠つてはならぬ。すべての職務をよく行ふにはこれに對する自覺が必要であるが保姆としてもその自覺を有することが必要である眞に自覺せる保姆こそは、又眞にその事業をよく行ふ人である。(文責記者)

法學博士 小河 滋 次 郎

も多くの種類があるが、幼児も亦一般的意味に於て弱者の一つなることはいふ迄もない。生物の中で人間の子供ほど生育に人の助けをかり、人の保護を要するものはない。其の保護を要する期間の長いことは動物の仔の比でないのである。殊に文